

第6回 植草学園 高校生 プレゼンテーションコンテスト2023 を開催しました!

令和5年11月11日(土)に、本学主催の「第6回 植草学園 高校生プレゼンテーションコンテスト2023」が開催され、約100名の参加者・聴講者が互いの熱い発表に耳を傾けました。

このコンテストは、本学の考える地域貢献の一つとして、高校生活の自己実現を支援するとともに、広く共生社会づくりに資することを目的として、毎年秋に本学の文化祭(緑栄祭)の開催に併せて開催しているものです。

今年は、本学学生も運営ボランティアとして参加し、初めての試みとして司会進行も担当しました。



6回目となる本コンテスト、今年のテーマは、「理想の共生社会をめざして ～心のバリアフリー実現のために～」です。

過去最多の12校16組の発表者は、大テーマに沿って各自が自由にテーマを設定し、ひと組7分以内という限られた時間に思いを籠め、創意工夫にあふれたプレゼンテーションを行いました。

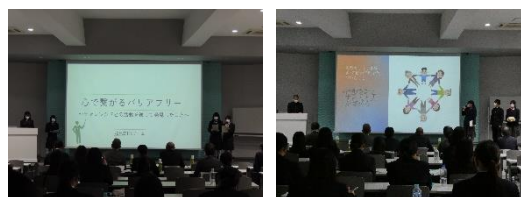
厳正な審査の結果、創価高等学校の鈴木伸子さんが「前提を想像する～健常者と健常者から考える心のバリアフリー～」というテーマで発表し、見事グランプリに輝きました。



準グランプリは、千葉県立松尾高等学校 チームA「私たちの突破物語」と、鎌倉女学院高等学校の出井陽佳さん「その分類、必要ですか?～性的マイノリティと分類～」の2組が受賞しました。



優秀賞は、千葉県立松尾高等チームB「心で繋がるバリアフリー～チャレンジドとの交流を通して発見したこと～」、千葉県立千城台高等学校「助け合い、そして繋がる」が受賞しました。



奨励賞は、千葉黎明高等学校「持続可能な心の社会実現のために」、千葉県立松尾高等学校チームC「介護職の現実と我々の目指す未来」、植草学園大学附属高等学校B「Let's create a colorful world(LGBTQの壁をなくそう!!)」が受賞しました。



そして、審査員賞は、文京学院大学女子高等学校の有村世菜さんがテーマ「ぬり絵で楽しく、多様性って当たり前」で、千葉県立京葉高等学校が「ボランティアから見た世界」で受賞しました。



年々、内容に深みが増し、個性的な工夫が随所にみられ、参加者一人一人の心に高校生のメッセージがしっかり届けられるコンテストとなりました。



審査員長からは、「どの発表もこれからの共生社会の実現になくてはならないテーマに真剣に向き合い、貴重な提案となっていた。話し方や独創性などを総合的に審査したが、大きな差はなかった。あえていえば、グランプリや準グランプリの発表は、自分が伝えたいことが自分の頭にしっかり入っていて、原稿を頼らずに表現する力が、豊かな説得力を生んでいたように思う。また、アンケートやデータに基づいて、自分の意見を掘り下げていたところも評価されたと思う。生成AIが利用される時代となったが、自分の考えをしっかり持つことは、最も大切で今後も失われることはない。」との講評をいただきました。

また、実施後のアンケートでは、「他の人の考えを聞いて、自分の視野が広がったと思う」「生活の中で、当たり前にも無意識のうちに行動しているにもかかわらず、いざ言葉にすると難しいテーマで有り、改めて考えることができた」「昨年も参加したが、昨年よりもレベルが高くなっていると感じた」「今まであったものを見直したり、これから新しく始めて行くべきものだったり、同世代の高校生たちの考えを聴き、社会だけでなく、私自身も得るものが多くあった」「他のグループでの視点やテーマ等を今後の活動に活かして行きたいと思う」という感想がそれぞれ寄せられました。

地域連携推進室 高大連携担当